

大妻同窓会新潟会報

発行日令和6年12月25日 第14号
大妻同窓会新潟(大妻女子大学新潟県同窓会)
〒955-0022新潟県三条市上保内乙358-4

ご挨拶

大妻同窓会新潟代表 渡邊美栄子

師走を迎え、会員の皆様におかれましては何かと慌ただしい日常をお送りの事と思います。平素より、当会に深い理解とご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。令和6年は元旦早々大変な災害が起り、能登では未だ当たり前の日常も戻らないまま年の瀬を迎えてしまい、本当に心痛む情報ばかりです。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。只々早い復興をお祈り致します。さて、当会も昨年には40周年を無事終えまして通常の総会とブーケ・フレームの講習会を開催することができました。

昨年末に、40周年の記念品として会報の御祝号とともに、大妻女子大学の購買部でしか販売していない エコバッグをお送りしましたが、お陰様で非常に好評で、思いがけないクリスマスプレゼントが

届いた、とても使いやすい、など嬉しいお声を頂きました。

また、大妻コタカ先生が歩んでこられた歴史や大学の現在など、これまで度々会報でお伝えしてまいりましたが、大妻の卒業生であることに誇りを持ったというご意見を幾たびか頂いており、何とか運営させて頂いてこられたのも、会員の皆様の暖かいご支援あつての事と役員一同、心より感謝しております。

令和7年度も総会を開催しますので、兎に角多くの皆様にお会い出来ることを心より楽しみにしております。同窓の集いは暖かく懐かしく大勢でも小人数でも、それぞれに良さがあり、本当にありがたいものだとも毎年実感しております。初めてでもお気軽に是非ともご参加頂けますようお願い申し上げます。

第42回総会開催 ありがとうございます。

令和6年5月26日、アートホテル新潟駅前にて、第42回総会開催いたしました。そして、全ての議案に対して異議無くご承認頂きました事をご報告申し上げます。本年も大妻コタカ記念会会長の井上小百合会長にご臨席を賜り、一同とても嬉しく思いました。そして、小人数でしたが、おひとりおひとりがそれぞれに主役の語り部となり、大妻の思い出や今の日常を語ってくださり、そのストーリーに感動したり、人生の気づきや学びを得るという、本当に有意義で楽しい一時を過ごすことができました。ご出席くださった会員の皆様に心より御礼申し上げます。



ブーケ・フレーム講習会を開催いたしました。

令和6年6月4日アトリエ・ドルチェの藤田まゆみ先生を講師として、「ブーケフレーム講習」を開催致しました。先生の手作りの押し花を惜しげ無く使わせて頂き、心から楽しんで作品を仕上げました。来年もというご要望が出るほど有意義な時間を過ごす事ができました。講習会の時間中、美味しい紅茶やお菓子をふるまってくれ、美味しいサンドイッチもほおばり、更に薔薇の美しいお庭を散策させて頂きました。

(※ブーケフレーム：押し花やドライフラワーなどを額に、アレンジして作品にするもので飾ることができます。藤田まゆみ先生は、日本紅茶協会認定ティーインストラクター、食空間コーディネーター、日本茶アドバイザーなど多くの資格を持ち日常を豊かに過ごすご提案をされています。)



会員様のお便りとお送り頂いた資料より

副代表の阿部徳子様よりお便りとご友人の新聞記事を頂きました。非常に感動する内容ですのでご紹介いたします。コタカ先生に直接ご指導頂いた先輩方、本当に羨ましいです。どうか沢山このような事を伝えて頂きたいですね。

阿部様より

“・・・尾道の友人が新聞を送ってくれました。彼女は地元の大妻の会には入っていないのですが、私達の中には、正確には58年間ずーっとコタカ先生の教えが存在。会話の中に「お母様こんな事、話されていたよね。」お姉様達は「こうだったよね。」と。新聞、コピーしたので送ります。・・・”

令和6年1月7日(日曜日) 中国新聞 記事

《世羅出身 大妻コタカ生誕140年 女性の自立 道開く 女子大創立 教育に生涯ささぐ》

世羅町出身で、大妻女子大(東京)を創立した大妻コタカ(1884～1970年)。女性が学問を続けることへの反対も根強かった時代に教育者への道を開き、生涯を通じて女子教育の発展に尽くした。生誕から今年で140年。コタカの人柄や今に生きる教え、古里に残る逸話を紹介する。(矢野匡洋)

6人きょうだいの末っ子として生まれたコタカ。勉学を志したが周囲に反対され、上京して裁縫の学校に入学した。1908年、24歳で裁縫の私塾を開設。実用的な技術が評判となり。塾生は急増した。学校となり強化を広げた後も自身の給与はなし。軍人だった亡夫の恩給で暮らした。目指したのは女性の自立。当時の女性にとって不可欠だった裁縫から始め、教師へと導いた。大妻女子大の卒業生たちでつくる大妻コタカ記念会(東京)の井上小百合会長は「教師は当時、男女格差なく就ける職業だったことから、教師の道を勧めたのだらう」と話す。教えは世羅町にも息づく。コタカは52年、旧甲山町が開いた大妻女子専門学校(81年に閉校)の校長に就任。古里の女子教育の発展にも努めた。生誕140年を記念して世羅町は、コタカを「おかあさま」と呼ぶ教え子たちとともに功績を広める催しを企画する。同町川尻に残るコタカの生家には、教えを刻んだ石碑がある。「恥を知れ」。これは他社に使う言葉ではない。言動に恥ずべきことはないか、自らに問いかけている。生家を活用して飲食店を営み、功績を広めている伏原由美子さん(71)は願う。「今に通じるコタカの教えを、多くの人に知ってほしい」

《「いつも感謝を口に」 話術も上手 秘書努めた政宗さん 人柄語る》

「いつも感謝を口にする方でした」。世羅町東上原の政宗富美恵さん(76)は、懐かしそうに振り返る。コタカが亡くなる前年の1969年から秘書を務め、今に生きる学びを授かった。政宗さんは旧甲山町にあった大妻女子専門学校を卒業後、私設秘書として東京でコタカの身の回りの仕事を担った。ある日、コタカに言われた。「あなたのお母さんは賢い人ですね」。母親をほめ、日々の働きぶりへの感謝を伝える言葉だった。話術が抜群に上手な人だったという。「美人という字の上に大きな『不』がつく私ですが・・・」と話始め、「顔は生まれつきでも心はいかようにも変えられる。心美人になりましょう」と説いた。教えを心に刻んだ政宗さんはコタカの死後、帰郷して2人の子どもを育て、民生委員なども務めた。「幸せは家庭にあること、その上で人のためになることが大切との教えを大事にできた。多くの言葉が私の宝物です」

《ゆかりの大成龍神社も人気》

コタカゆかりの場所で、近年注目されているのが世羅町川尻の大成龍神社。無人の小さな社は、地区出身者に成功した人が多いため「出世の神」として全国から参拝者が訪れる。コタカの著書によると、1928年のある夜、霊媒師が神社の氏神のお告げとして「小さなほころでもよいから作ってくれ」とコタカに伝えたという。コタカはすぐに神社を建て、足を悪くした晩年も毎年参拝した。願いが書かれた絵馬は2016年は年間200枚程度だったが、去年は約1万2千枚に。氏子の木村卿彦(きむらのりひこ)さん(75)は「人気ぶりに驚いてる。コタカさんの持つ力だろうね」と話す。“



コタカが残した教え

心美人に

顔や姿は生まれつきのものだが心は自分次第で
変えることができる。どんな人からも親しまれる人
格をつくるため、日本一の心美人になろう。

らしくあれ

まずは個性を育み自分らしさを養うことが大切。
その上で、相手や場所、立場に応じて最適振る
舞いをするよう心がけよう。

大妻コタカの生涯

1884年 ●世羅郡三川村で
熊田家の第6子と
して誕生。3歳で父、
14歳で母を亡くす

1902年 ●上京し、和洋裁縫
女学校に入学

1907年 ●鎌倉尋常高等省の

教師となる。

大妻良馬 と結婚

1908年 ●裁縫と手芸の私塾
を開設

1916年 ●私立大妻技芸学校
(各種学校)設置

1929年 ●財団法人大妻学院
認可。

夫の良馬が急逝。

1949年 ●大妻女子大学を
設置

1952年 ●旧甲山町が開いた
大妻女子専門学校の
校長に就任

1970年 ●85歳で死去

お便り、新聞記事は以上です。提供してくださった阿部徳子様に心より感謝申し上げます。

他に書籍などご提供くださった会員の方もいらっしゃいますので今後紙面が許す限りその一部などをご紹介させていただきたいと思います。

一般財団法人大妻コタカ記念会について

<https://www.otsuma-kotaka.or.jp>

(Facebook: @Otsuma.kotaka.kinenkai)

大妻コタカ記念会は、学校法人大妻学院の設置する学校の卒業生及び大学生・高等学校生徒で構成される団体です。明治41年大妻学院創立の後、創立者の大妻コタカ先生とご夫君の大妻良馬先生は大正10年に「大妻同窓会」を設立し、コタカ先生は終生、会長として全国の多くの同窓生の、いわば生涯学習のために、多くの事業を行ってこられました。コタカ先生ご逝去の後、「大妻同窓会」は大妻コタカ先生のお名前を永久に残し、ご遺志を継承すべく、「財団法人大妻コタカ記念会」の設立を文部省に申請しました。大妻コタカ記念会が普通の同窓会の事業の他に、社会の福祉や文化の発展に役立つ公益のための活動ができるものと認められ、昭和49年5月にその認可を得たのです。大妻コタカ記念会は、同窓生相互の親睦をもとに、公益法人としての活動に尽力しております。

【大妻コタカ記念会への会費の納入について】(*大妻同窓会新潟が補助を頂いている団体。全国の卒業生が会員)

卒業生は会費を納めていただく事により、大妻コタカ記念会の会員になります。記念会から会報や会誌が送られてこなくなった方は会費が切れている方です。下記の方法で会費をお納めください。

●年会費は2000円です。何年分でも納入できます。

●会費の切れていた期間はさかのぼって納めなくても大丈夫です。納めてくださった年から有効となります。

●会費の納入方法はこちらです。

郵便振替 郵便局備え付けの払込取扱票で

通信欄に下記の事項を記入してください。

現氏名(ふりがな)改姓の場合は旧姓も

卒業の学科、専攻、クラス

卒業年(卒業年度ではなく〇年〇月卒業と)

生年月日(同姓同名が多いため)

現住所、電話番号、eメールアドレス

に対してひとり500円の援助金が追加されるため、よろしければ大妻コタカ記念会様への入会もお願いできれば尚更ありがたく存じます。

第43回(令和7年度)定期総会のご案内

別途ご案内致します。

役員募集致します！

令和7年役員改選に向けて理事となり、会で活動して下さる方を募集しています。

皆様からの寄稿大募集！

近況や大妻時代の思い出など何でもよいので寄稿して頂けたら嬉しいです。(400字1枚～2枚程度)メールでも結構です。

役員をしてくださる方は、次の連

絡先までいずれの方法でも結構です。寄稿は直接送ってくだされば幸いです。

編集後記 遅くなりましたが、第14号を発行することができました。これもいつもご協力くださる会員の皆様の深い理解の賜物と心より感謝申し上げます。今回は会員の方からの資料提供を頂きまして非常にありがたかったです。それでは平和でお健やかな年末年始をお迎えください。そして、時節柄どうかご自愛くださいませ。ごきげんよう。

*大妻コタカ記念会様からの地方同窓会への援助金制度があります。定額に加え大妻コタカ記念会様の会員であり、かつ大妻同窓会新潟の会員である方の人数